

南部地区

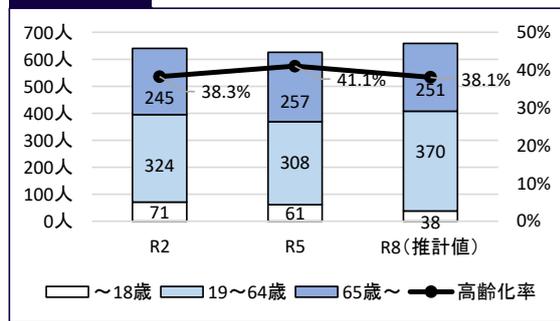
◆概要

	【位置図】	まち協名	南部地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市安知本町950-2	電話	0595-83-3117
		地区構成	安知本町 田茂町 楠平尾町		
		地域特性	<p>亀山市南部に位置し、地区内を県道鈴鹿芸濃線、主要地方道亀山白山線、市道野村楠平尾線が通っています。4つの自治会（楠平尾町、安知本町、安知本町上原、田茂町）から構成され、中央に南部地区コミュニティセンターが設置されています。中の川や田茂池、どんど池といった豊かな水資源が田畑を潤し、緑豊かな自然環境を有する山間の地域で、地元ボランティアによる里山整備もされています。亀山市内や津市、鈴鹿市へのアクセスは良好な立地ですが、一方で公共交通が弱い面があります。</p>		
面積	407.7ha	ホームページ	http://www.za.ztv.ne.jp/nancomi950-2/index.html		
めざす姿	子どもからお年寄りまで笑顔で暮らせるまち				
地域の誇り	幅広い年代が一緒になって、さまざまな行事に取り組んでいる				

◆人口

	令和2年	令和5年	令和8年 (推計値)	増減	
総人口	640人	626人	659人	-14人	
人口密度	1.57人/ha	1.54人/ha	1.62人/ha	-0.03人/ha	
65歳以上	人口	245人	257人	251人	12人
	比率	38.3%	41.1%	38.1%	2.8%
18歳以下	人口	71人	61人	38人	-10人
	比率	11.1%	9.7%	5.8%	-1.3%
外国籍	人口	13人	22人	9人	
	比率	2.0%	3.5%	1.5%	

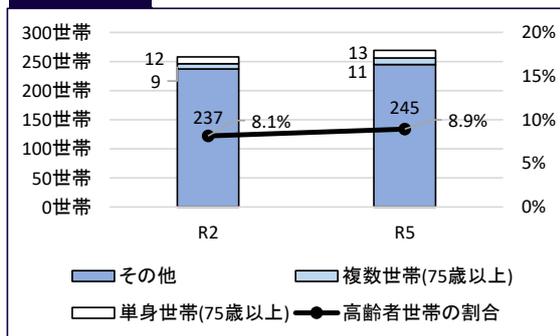
◆人口推移



◆世帯

	令和2年	令和5年	増減
総世帯	258世帯	269世帯	11世帯
単身世帯 (75歳以上)	12世帯	13世帯	1世帯
複数世帯 (75歳以上)	9世帯	11世帯	2世帯
高齢者世帯割合	8.1%	8.9%	0.8%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	令和2年	令和5年	増減
要支援1.2	17人	15人	-2人
要介護1~5	28人	30人	2人
合計	45人	45人	0人

◆地域組織

	令和2年	令和5年	増減
自治会	4	4	0
老人クラブ	1	1	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	1
主任児童委員	1
福祉委員	9
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・一般診療所	0
歯科診療所	0
薬局	0
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	9

◆担当地域包括支援センター

亀山第1地域包括支援センター ぼたん

◆サロン活動

	令和2年	令和5年	増減
ふれあいいきいきサロン	2	1	-1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	1	1	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員
自治会長 老人会長

◆活動内容

【交流活動】
三世代交流事業として、ふれあい大運動会を行っています。年2回いきいき「ふれあい」サロンを行っています。

【訪問活動】

70歳以上一人暮らし、75歳以上二人暮らし、体のご不自由な方への訪問活動を行っています。



納涼盆踊り大会



文化・農芸祭

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・納涼盆踊り大会
- ・球技大会
- ・ふれあい大運動会
- ・敬老会
- ・文化・農芸祭
- ・安全対策教室
- ・いきいき「ふれあい」サロン

◆生活支援コーディネーターからのコメント

南部地区の人口は市内で2番目に少ない626人で、そのうち41.1%にあたる257人が65歳以上です。地域内269世帯のうち、8.9%にあたる24世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の3.5%にあたる22人が外国籍です。

地域の特色として、地区内にはスーパーや個人商店はありませんが、4カ所に移動販売が来ており、住民の生活を支えています。また、バスの本数が少ないことやバス停まで距離があることから、公共交通機関での医療機関の受診などは高齢者にとってやや難しい状況です。地域活動として、令和5年度はコロナ禍で実施できなかった納涼盆踊り大会や文化・農芸祭を開催し、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流を深めました。また、住民の防災意識の向上を目的に地震体験車を活用した安全対策教室の開催や町内に防犯カメラの設置する等、住民が安心して暮らしていける地域の実現に向け取り組んでいます。今後も地域活動などを通じて、いつまでもお互いが支え合いながら生活できる地域づくりへの展開が期待されます。